

岡崎市地域公共交通計画の改訂について

改訂支援業務の受託者の決定について

1

業務名称

岡崎市地域公共交通計画改訂支援業務

業務期間

令和 7 年 6 月 18 日 から 令和 8 年 3 月 26 日まで

受託者

日本工営株式会社 名古屋支店

業務委託料

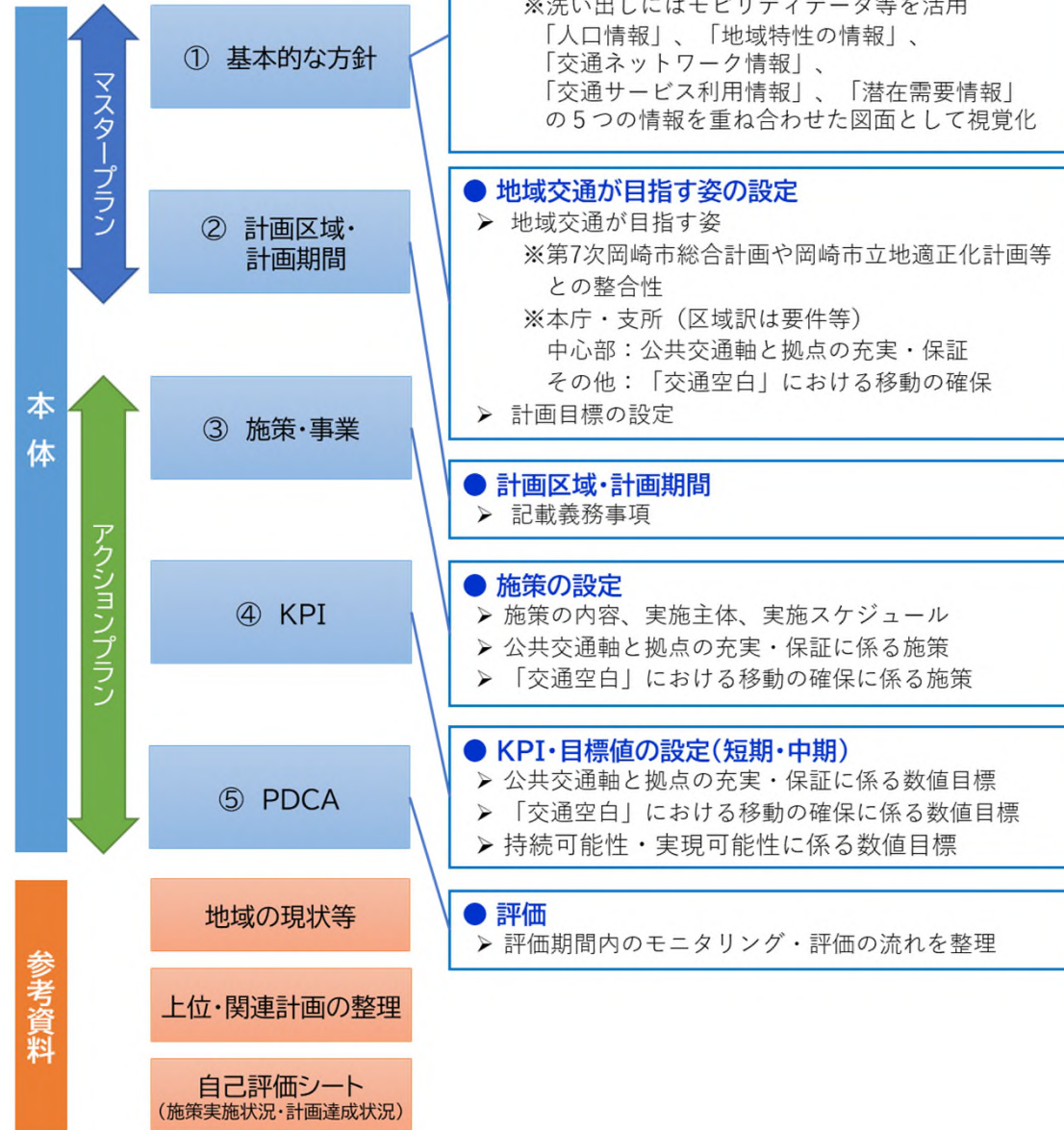
9,471,000 円（税込）

主な業務実績

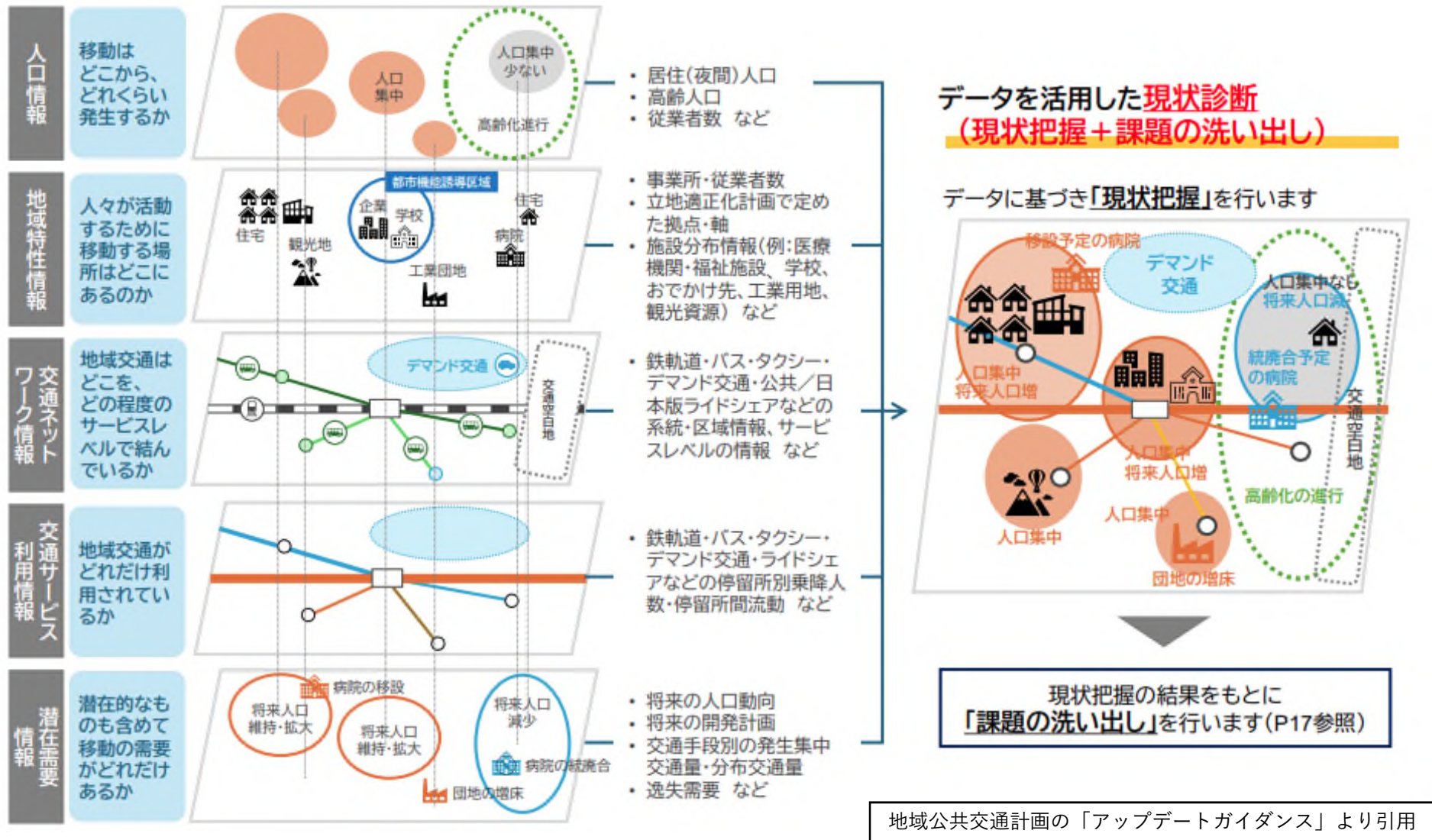
- ・ けいはんな学研都市（京都府域）地域公共交通計画策定支援業務
- ・ 枚方市総合交通計画改定業務委託
- ・ 愛媛県地域公共交通計画策定業務
- ・ 旭川市地域公共交通計画策定支援業務委託
- ・ 令和 4 年度 守谷市地域公共交通計画策定業務

令和7年度第1回地域公共交通会議資料から再掲

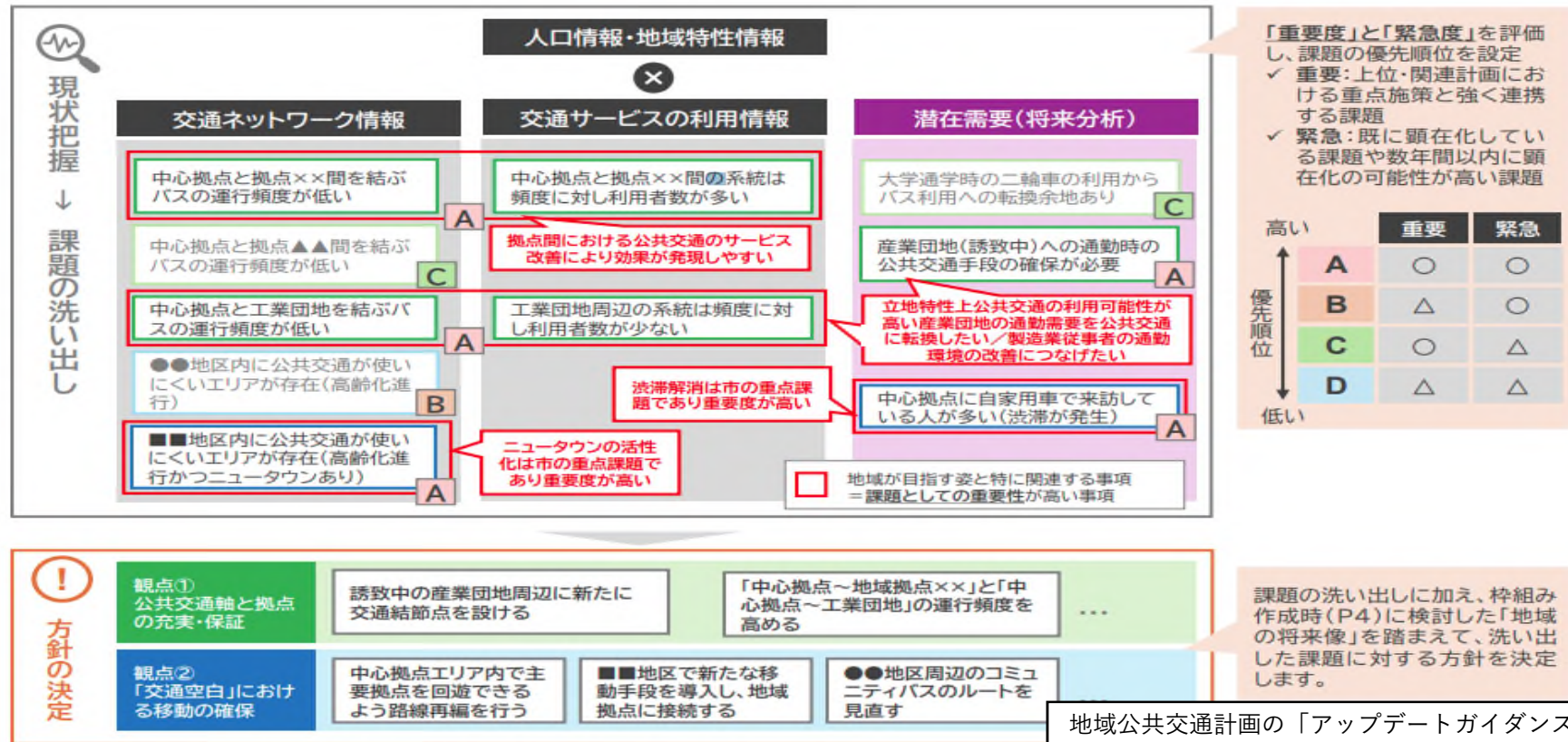
- シンプルな論理構成と一貫性のある計画となるよう、モビリティ・データを活用し、自治体にとって「無理なく」、地域住民や関係者にとって「難しくなく」、地域にとって「実のある」地域公共交通計画へのアップデートを目指す。
- 本体資料は30ページ程度の分かりやすい構成とし、アンケート結果等の詳細の情報は参考資料とする。
- 岡崎市統合型GISに停留所データや路線データなどをインプットし、都市計画や人口分布などのデータと連動させることで、課題発見の迅速化、施策の解像度を上げ、都市や地域の「目指す姿」の設定などに活用することを目指す。



令和7年度	第1回（R7.5.23）	【改訂方針の確認】 ・次期計画の構成イメージ ・策定体制、支援事業者の選定方法等について
	第2回（R7.8.4）	【計画改訂までのスケジュール】 【現状診断・アンケート方法に関する協議】 ・アンケート方法の確認 ・オープンハウスについて
	第3回（R7.10.17）	【モビリティデータを活用した現状診断の進捗状況の報告】
	第4回（R7.12.10）	【アンケート調査・オープンハウスの結果報告】 【地域交通が目指す姿（案）に関する協議】
	第5回（R8.2.24）	【地域別意見交換会の結果報告】 【マスタープラン（案）に関する協議】
令和8年度	第1回（R8.5頃）	【施策・事業の策定方針の確認】
	第2回（R8.8頃）	【施策・事業（案）の確認】 【KPI・PDCA（案）の確認】
	第3回（R8.10頃）	【パブリックコメント（案）の確認】
	第4回（R8.12頃）	【パブリックコメントの結果報告】 【市への報告（案）の確認】
	第5回（R9.2頃）	【市への報告について確定】



- 人口情報、地域特性情報、交通ネットワーク情報、交通サービス利用状況、潜在需要情報を重ね合わせ、物理的な「交通空白」エリアの抽出を行う。
- 地域特性情報、交通サービス利用状況、潜在需要情報についてはアンケート調査において、市民意識として把握し情報として加味して診断する。
- アンケート調査による移動実態調査で把握できない、来訪者の実態や住民の詳細な移動目的地、移動時間帯等を補完する目的で、人流解析のためのビッグデータを活用し、目的地別の来訪時間帯や来訪地などの詳細な情報を取得し、路線やダイヤの検討に活用する。
- 主要な滞在場所やODの状況を把握したうえで、来訪地分析により主要施設の利用時間を把握することで公共交通サービスの実態・活動ニーズのギャップ把握に活用する。



●市民へのアンケート

- 市民1,500人に対し、郵送配布式のアンケート調査（18歳以上）を実施（岡崎市にて郵送配布・回収）
- その他、WEBアンケートなども実施
- 地域×年代でのクロス集計及び地域区分（市街化区域・居住誘導区域・農住環境保全地域・中山間地域）での集計を行い、移動サービスに対する潜在的な利用意向や課題意識を分析すると共に、現行計画の評価を行う
- 移動分担率については中京圏パーソントリップ調査の数値を用いる予定
- 実施予定期間：9月～10月
- アンケート内容の案については【別紙1-2】のとおり

●大学生・高校生へのアンケート

- 岡崎市内の大学・短大・高校に通学する学生に対してWEBアンケート方式による調査を実施
- 通学時や休日の公共交通利用状況、公共交通に関するニーズを把握する
- 実施予定期間：9月～10月

項目	設問内容（案）
基本情報	● 学校名、居住地、性別等）
通学時の移動について	● 通学手段（晴天時、雨天時）、登下校の時間帯 ● 家族による送迎の頻度
通学時以外の利用について	● 通学時以外の公共交通利用 ● 公共交通で行きたい場所
公共交通の利用意向について	● （将来的な）公共交通の利用意向 ● 公共交通を利用したいと思う条件 ● 街中にどんな施設があれば公共交通を利用して訪れたいか

●商業施設等でのオープンハウス方式での意見収集

- 計画の内容などを展示などで分かりやすく説明し、それに対して市民から直接意見を収集する形式
- 市内や市外から来訪する大型商業施設や、地域住民が日常的に利用する商業施設のほか、岡崎城下家康公秋まつりの会場等での実施を想定
- 実施予定期間：9月～11月

●意見交換会

- 岡崎市都市計画マスタープランで示す8つの地域区分（支所別）を基本として、「市街化区域」、「農住環境保全地域」、「中山間地域」などの地域の特性に配慮した区分により意見交換会を実施する。
- 実施予定期間：12月～2月

目的	● 地域別に市民の公共共通の利用状況や問題点を把握し、公共交通サービスの課題抽出や交通施策の検討に活用する。 ● 持続可能な公共交通にむけて、利用促進や共助によるサービス提供についての意識醸成を図る。
テーマ	● 普段の外出状況・公共交通の利用状況 ● 移動に関する困りごと ● より利用できる公共交通となるには ● 地域協力型運行方法のアイディア

- 現状診断結果を踏まえて、下記の3つの観点から課題の洗い出し・整理を行う。

観点① “空間的”交通空白地における移動の確保

- 「空間的交通空白地」の設定について、下記の通り整理する。
 - ・ 鉄道、路線バスの「公共交通サービス状況」を可視化。
 - ・ 高齢者をはじめとした移動弱者にとっての徒歩圏をアンケートで把握・地域別に整理。
 - ・ 地域ごとの許容徒歩圏を踏まえた、公共交通利便地域を可視化。
- 以上より、活動のニーズに合った移動手段が確保されているかを確認し、空間的交通空白地を設定、課題の抽出に活用する。
- 将来人口推計をもとに、現在・将来についてそれぞれ可視化する。

観点② 公共交通軸と拠点の充実・保証

- 拠点間における確認方法として下記を検討する。
 - ・ 公共交通手段の運行時間帯、運行頻度、運行範囲を整理し、公共交通のサービス状況について「有無」ではなく「濃淡」で可視化
 - ・ 「目指す将来像」や「人口分布状況」、アンケート等により把握した「活動ニーズ」を踏まえ、市民活動のニーズを可視化。
- 両者を比較することにより、移動サービスとしての品質が保証されているかを確認し、課題の抽出に活用する。

観点③ 持続可能性・実現可能性の確保

- 公共交通サービスのための「資金・人材」、「利用者の状況」、「他分野との連携」、「関連する主体」に着目し、地域にとって持続可能なサービスや体制の構築ができているかを確認し、課題の抽出に活用する。

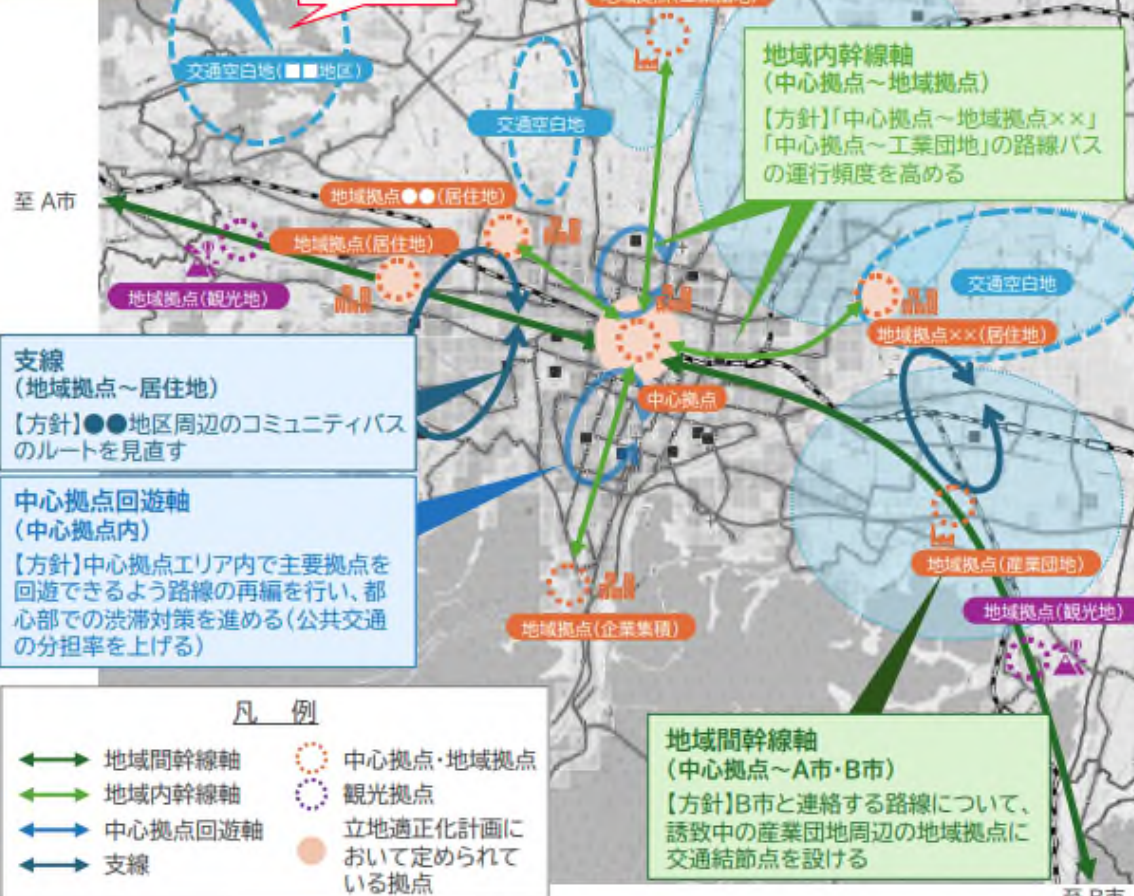
現状診断結果を下敷きに、地域交通が目指す姿(地域交通ネットワーク)を描きましょう

- ・現状診断結果を踏まえ、地域交通が目指す姿(地域交通ネットワーク)を整理します。設定する地域交通ネットワークは、都市計画マスタープランや立地適正化計画で掲げるまちづくりの将来像を見据えたものとするなど、長期的な視点も考慮することが効果的です。
- ・検討にあたっては、持続可能な地域交通を実現する観点から、需要に応じた階層的なネットワークを整理することを前提に考えることが重要です。

「交通空白」の解消

【方針】交通空白地である■地区で新たな移動手段(公共ライドシェア等)を導入し、地域拠点に接続する

新サービス導入



交通軸・拠点の設定例

既存計画や、上位・関連計画での設定を意識しつつも、これまでの現状診断結果を踏まえて理想的なあり方を改めて検討してみましょう。なお、交通軸・拠点の名称は各地域の特性を踏まえ任意に設定してください。

	設定すべき場所	設定例
中心拠点	- 人口が集積 - 各種の都市機能が集積 - 公共交通でアクセスしやすい - 都市基盤の整備が進んでいる	- 立地適正化計画の中心拠点 - 中心市街地活性化基本計画[※]の中心市街地 - 市役所や市の中心となる駅・バス停の周辺 - 業務・商業機能が集積している地区
地域／生活／観光拠点	- 人口が比較的集積 - 日常的な生活サービス施設が集積 - 徒歩・自転車・末端交通等でアクセスしやすい - 都市基盤の整備が比較的進んでいる	- 立地適正化計画の地域／生活拠点 - 行政支所や地域の中心となる駅・バス停の周辺 - 小売り機能等が一定程度集積している地区 - 来訪者の多い観光拠点
交通軸	拠点を連絡し、将来にわたり一定以上のサービス水準を確保する地域交通が運行する路線	- 中心拠点・地域拠点間を接続する路線 - 隣接する都市と中心拠点を接続する路線

※中心市街地活性化基本計画とは、「中心市街地の活性化に関する法律」に基づき、市町村が中心市街地の活性化に関する施策を総合的かつ一体的に推進するために作成するものです。

地域公共交通計画の「アップデートガイダンス」より引用